

第3種郵便物認可

輝翠テック

日本の農業に貢献したい



「AIを使い「日本の農業に貢献していきたい」と話す輝翠テックCEOのタミル氏

を学び、米スペースXでのアソシエイトエンジニアなどを経て、18年から東北大学で月面探査ロボットへのAI活用などを研究。来日後、東北各地の農村部と交流し、地域課題の解決に向けて「AI・ロボット技術を役立てていきたい」と考えた。

「日本の農業に貢献していきたい」。輝翠テック最高経営責任者（CEO）のタミル・ブルム氏はロボットや人工知能（AI）技術を用いて、高齢化が進む農家の労働環境を改善する事業に力を注ぐ。東北大学発ベンチャーの同社は2021年9月に発足した。

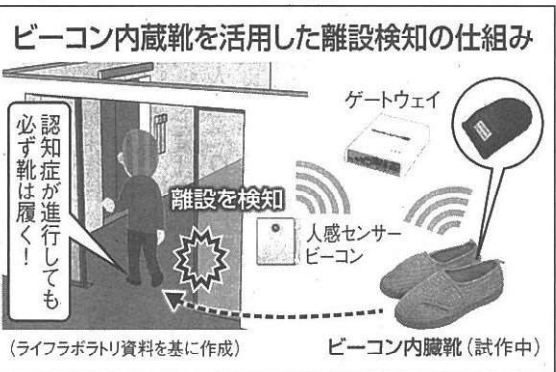
イスラエル出身のタミルCEOは、米カリフォルニア大学ロサンゼルス校（UCLA）で航空宇宙工学

すでにプロトタイプ of 自動搬送ロボットを開発し、リンゴ農家らとの連携に取り組んでいる。将来は各種センサー搭載によるデータの活用など農業分野でのイノベーションを志す。地域の農家とベンチャーを結びサポートは、「T-Biz」を運営する中小機構東北本部も東北各地の自治体との橋渡し役になっている。

「T-Biz」をはじめよう ◀ 東北大学連携BI⑫

ライフラボトリー

人・モノの位置電波で検出



富士通出身の鈴木和浩社長がウエアラブルセンサー開発の事業化を見据えて2015年に設立した。人・モノの動きをセンシングするとともに、柱や棚などに据え付けたビーコンの電波強度を測定して位置をとらえる屋内位置情報システムの製造・販売を手がける。製品の特徴は、乾電池で動作し、設置工事なしで利用できる。測位精度は約1メートル。ネットワーク接続は行わない。

屋内位置情報システムは16年に市場投入し、大手メーカーの工場に導入が進んだ。これまでに20システム・3500デバイスの販売実績があるという。導入効果としては生産性の10〜20%向上などが見込める。今後の展開について、鈴木社長は「地域中小企業への提案を強化したい」と話す。同システムの利用でその改善効果は「大企業よりも改善の伸びしろが大きい」とみる。

同システムの応用も進む。介護施設とタッグを組んで、利用者が施設から無断で出てしまう「離脱」を検知するビーコン内蔵靴の試作に挑戦している。

富士通出身の鈴木和浩社長がウエアラブルセンサー開発の事業化を見据えて2015年に設立した。人・モノの動きをセンシングするとともに、柱や棚などに据え付けたビーコンの電波強度を測定して位置をとらえる屋内位置情報システムの製造・販売を手がける。製品の特徴は、乾電池で動作し、設置工事なしで利用できる。測位精度は約1メートル。ネットワーク接続は行わない。

▽仙台市青葉区▽タミル・ブルム
MCEO▽080・3322・7337

▽仙台市青葉区▽鈴木和浩社長▽
022・7224・7016